



ザーラ・アリヤファル

ZAHRA ARIYAFARさん

シスコシステムズ合同会社
エンタープライズシステムエンジニアリング
システムエンジニアリング第2
システムエンジニア

Noor High School(イラン)・鹿児島工業高等専門学校出身

電気通信学部電子工学科卒業後、2010年電気通信学研究科電子工学専攻博士前期課程修了。同年、シスコシステムズに入社。入社後、バックヤードのテクニカルソリューションチームを経て、エンタープライズシステムエンジニアリング部に配属、アカウントSEとしてグローバルインバウンド(外資系)を担当している。

Woman's Voice

◎大学時代やっていて良かったと思ったことは？

交流会などに積極的に参加したこと。友だちや知り合いがたくさんできた。

◎大学でやり残したことは？

ICT(情報通信技術)と社会の連携、経済・ビジネス系の知識の習得。社会に出ると、日本社会の仕組み、IT/ICTの社会への影響などについての知識が必要となってくるため。

国際的な環境で、研究に没頭した日々

「世界的に知られる電機メーカーがあり、治安も良いことから日本を留学先に選びました」と話すのは、シスコシステムズでシステムエンジニア（SE）として働くイラン出身のザーラ・アリヤファルさん。親戚が留学していたこともあり、日本は幼い頃から身近な国だった。高校卒業後、大使館の試験を受け、国費留学生として来日。1年間、日本語を勉強し鹿児島工業高等専門学校で電子制御工学科3年に編入学した。

「ロボティクスに関連する電気、機械、ソフトウェアなどを幅広く勉強しました。ロボット製作の授業は、電子回路から考え、ロボットコンテスト出場を目指すという本格的なもの。毎週、リポートを書くために必死で勉強しました。当時はまだ日本語もままならず、最初の1年は苦労しましたね」

国際色豊かな研究室で、広い視野を身に付ける

その後、電子工学と無線通信を学ぶため、電気通信大学に編入学した。「留学生仲間の先輩に助言を求めたところ、特に次世代の無線通信分

野で唐沢好男教授が世界最先端の研究をされていることを知り、進学を決めました」

電通大も例外ではないが、日本は女性の理系進学者が極端に少ないことに驚いたザーラさん。イランでは、文系と理系の進学者数はほぼ同じで、理数科目が敬遠されることはないと言う。

「イランの学校では、学生に常に考えさせる授業をするし、教え方もユニークです。数学の試験問題も、最終的な解答よりも考える過程が評価される。日本では、理数科目でも暗記することが多いので、苦手意識を持つ人が多いのではないだろうか」

唐沢研究室には、博士前期（修士）課程まで在籍。修士論文では、NTTドコモと富士通との共同研究で、高速無線通信のベースとなる技術「LTE (Long Term Evolution)」について研究を深めた。研究室は半数が留学生。国際色豊かな環境は、ザーラさんの五感を大いに刺激した。

「研究室では留学生がそれぞれの国の料理を作ってもなす習慣があり、にぎやかで楽しかったですね。交流のなかで、多様な文化に触れグロー

バルな視野が身に付きました」

社交的な性格と日本語能力の高さから、仲間からの信頼も厚いザーラさん。大学院時代は、留学生の世話係も務めた。

「2年間はキャンパス内にある国際交流会館に入寮。チューターとして、留学生のサポートをしました。私自身も経験したことです。日常会話に問題がなくても専門用語となると途端に理解が難しくなる。大学でも最初の1年は言葉の壁に悩み、ひとの2倍勉強しました」

会社でも最初の1年は大変だったが、2年目に入り少しずつ自信も付いてきた。「何ごとも積み重ねが大切。過去の経験は自分の糧になるし、振り返ってあのとき乗り越えられたのだから大丈夫と自分に言い聞かせる意味でも、多くの経験ができて良かったと思います」。

グローバルな舞台で活躍するSEを目指して

卒業後の進路を決める際には、外資系の電気通信会社で、インターンシップを体験。そこでの経験から、人とかかわりながら、インタラクティブな

技術系の仕事をする自分が自分には合っていると実感した。そして日本語と英語の両方を生かし、グローバルに活躍できる外資系企業という条件にシスコシステムズは合致した。

「現在はプリセールスエンジニアとして、日本に拠点を持つ外資系企業の顧客を担当。企業内外のIT（情報技術）に関する課題をヒアリングし、お客様のニーズに合わせた最適なソリューションを提案しています」

プリセールスエンジニアの仕事には、クライアントに技術資料をわかりやすく説明するテクニックが要求される。

「大学の研究室では、発表する機会が多く、自然とプレゼンテーション能力も身に付き、入社後も役立ちました」

取り扱う製品は幅広く、すべてについて知識を身に付けるのは大変だが、最先端の技術やトレンドを学べるのでやりがいがあるとザーラさん。

「誰でも最初は、スキルや経験がなくて当然。社会に出たときに大切なのは、チャレンジ精神。自分の核となる軸を持ち、なおかつ柔軟性を持って対処していけば大抵のことは乗り越えていけると感じています」

電通大主催の国際交流会の様子。電通大ではこのような活動を通して国際交流の円滑化が図られている（写真左）。社内は無線環境が整備されており、パソコンを常に持ち歩く。チャットで社員と連絡を取り合うことができるブラックベリーも重宝（写真右）

